



empower!



YU empowering with SDGs

2020.5～2022.3

(第1期 活動報告)

YU-SDGs Task force



YU-SDGs_TFの設置(2020年5月12日@役員会)

資 料
令和2年5月12日 役 員 会

山形大学 SDGs (YU-SDGs) タスクフォースの設置について (案)

1 趣旨

3つの使命と5つの基本理念を掲げる山形大学が、「2030年までにより良い世界を目指す国際目標 (SDGs)」に積極的に取り組み、教育・研究・大学ガバナンスの各機能にSDGsを実装するとともに、地域におけるSDGsの実践において主導的役割を果たすための方策を検討するタスクフォースを設置する。

2 検討事項

- (1) 「山形大学 SDGs 宣言 (仮称)」の策定
- (2) 山形大学の各機能へのSDGsの実装
 - ・既に行っていることのマッピング
 - ・SDGsについての内部の能力の強化と当事者意識の構築
 - ・優先順位、機会及びギャップの特定
 - ・本学の各種目標・計画等へのSDGsの統合、組み込み
 - ・SDGsに対する行動のモニタリング、評価及び広報
- (3) 地域におけるSDGsの実践及び普及

3 構成員

リーダー 林田光祐 副学長 (SDGs 特命担当)
 サブリーダー 栗山恭直 教授 (理学部主担当)
 下平裕之 教授 (人文社会科学部主担当)
 古川英光 教授 (理工学研究科主担当)
 その他リーダーが指名する本学学生及び教職員並びに学外協力者
 計 15名程度 (別紙のとおり)

4 事務

関係部署の協力を得て、国際交流室において処理する。

5 その他

- (1) タスクフォースにおける検討状況は、適宜、役員会に報告しフィードバックを受ける。
- (2) タスクフォースの運営に関する必要事項は、リーダーが定める。
- (3) タスクフォースはリーダーのSDGs特命が終了したときに、役員会に報告の上廃止する。

(別紙)

山形大学 SDGs (YU-SDGs) タスクフォース構成員

令和2年5月12日現在

<学内教職員>

- ◎ 林 田 光 祐 副学長 (SDGs 特命担当)
- 栗 山 恭 直 教授 (理学部主担当)
- 下 平 裕 之 教授 (人文社会科学部主担当)
- 古 川 英 光 教授 (理工学研究科主担当)
- 菅 原 靖 上席専門員 (国際交流室)
- 樋 口 浩 朗 ファンドレイザー (EM部)
- 葛 西 聖 仁 副課長 (施設部)
- 國 分 裕 基 係長 (企画・財務部)
- 三 浦 結 衣 一般職員 (小白川キャンパス事務部)

<学外協力者>

藤 巻 正 之 氏 山形大学生生活協同組合 専務理事

<学生スタッフ>

河 田 亜 依 工学部化学・バイオ工学科2年

山 下 祐 一 農学部食料生命環境学科2年

<事務>

国際交流室

以上



YU-SDGs_TF 山形大学 | SDGs 企画書(2020年7月1日@役員会)



2020年7月1日 役員会
YU-SDGs TF 山形大学 | SDGs 企画書

empower! YU empowering with SDGs

SDGs概説

- SDGsとは何か?
- SDGsの世界的な重要性
- SDGsの大学への期待と大学が受けるメリット
- SDGsへ大学が何ができるか?
- 他大学の取組状況

山形大学とSDGs

- 関連する学長発言
- 山形大学の既往の活動
- SDGsに貢献する山形大学
- 学生が行っている活動事例
- 山形大学生協のSDGs活動(奨励)
- 山形大学としてどう取り組むことができるか
- 山形大学がSDGsに対応するための課題

対応案

- 山形大学 | SDGs
- 学長メッセージ
- YU empowering with SDGs
- 担当組織EmpowerStation設置
- EmpowerStationの行動指針、行動計画
- 各施策・取組の詳細
- 今後のスケジュール等

SDGs概説 → 山形大学とSDGs → 対応案

山形大学がSDGsに対応するための提案 YU-SDGs

山形大学 | SDGs

- 学長メッセージ: 社会の持続可能な発展にむけて
- YU empowering with SDGs

担当組織EmpowerStation設置

- EmpowerStationの行動指針、行動計画
- 各施策・取組の詳細

今後のスケジュール等

empower! コンセプトキーワード
「empower」: 力づける, 力を与える

13/26

SDGs概説 → 山形大学とSDGs → 対応案

関連する学長発言



人類社会の諸問題を解決するため、豊かな人間性と問題解決能力を高める「教育」、革新的技術や新たな思想を生み出す「研究」を推進して、**社会の持続的発展に貢献**していきます。
(HP学長室より 学長就任にあたって)

・支援が得られにくい事業はSDGsなど社会目標・基準で戦略的に推進
・社会的説明を通じて人文・社会科学の研究を強化
(所信を聞く会資料)

山形大のミッションは地域創生。特に東北地方は少子高齢化が進み、地域コミュニティの持続が困難となっている。**持続可能な開発目標(SDGs)**を含め正面から取り組んでいく。
(2020/04/03山形新聞)

山形大の方向性として
『**地域社会の持続的な発展を支える大学**』を目指している。すぐに成果が見える短期事業だけでなく、波及効果が見えるまで時間がかかる地道な事業も重視し、社会に対して安定して働きかける力を備えた大学づくりを進めたい。
(2020/06/03日刊工業新聞web)

26/26

SDGs概説 → 山形大学とSDGs → 対応案

山形大学が描く 未来の社会・地域の在り方 YU-Vision

山形大学における SDGs への対応 (位置付けと活用) について (YU-SDGs)

SDGs 視点のパフォーマンスモニタリング
大学諸活動の目標には位置づけず、結果のみを SDGs 視点で捉える。

SDGs の枠組みによる活動支援
教育研究等大学諸活動の SDGs 視点での見える化による
・パートナーシップの促進と拡大
・能動的活動の活性化を支援

YU-SDGs EmpowerStation の行動指針
・THE インバトランキン
(SDGs 世界大学ランキング)
・SDGs 認知度 国内1位
・SDGs 活性化
・SDGs 充実度
・SDGs 活用度
・圧倒的スピード感
・支援策の充実化
・現場主義の取組迅速改善 (イノベーション)
・成果重視マネジメント (ランキン・アワード・大学) による
・チャレンジマインドの向上

ファンディングを目的とした大学ブランディングの手法としてSDGsの枠組を最大限に活用する。

16/26



学内アンケート調査の実施

(1) 調査内容

- ・SDGsの認知度
- ・学生：学習意欲
教員：関連講義・研究
職員：業務意識 等
- ・関心のあるゴール
- ・大学への要望 等

(2) 調査方法

○期 間：【学生】令和2年7月7日～7月14日

【教員・職員】令和2年7月2日～7月10日

○方 法：インターネット上のアンケートシステム Googleフォーム利用

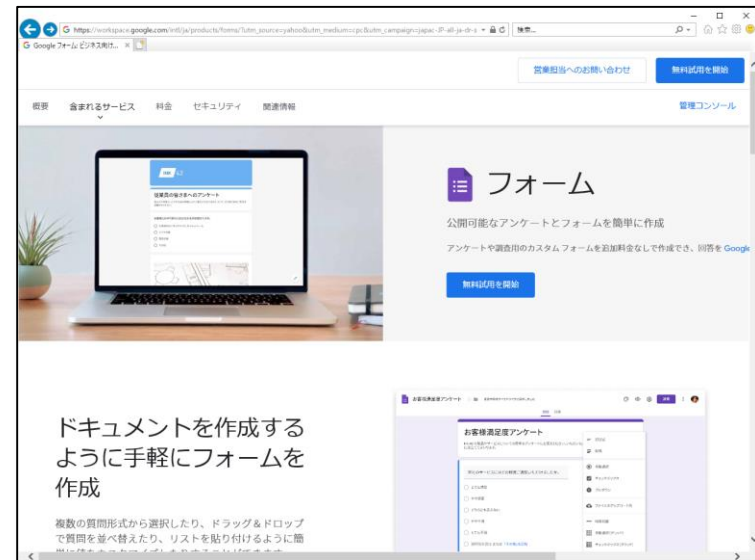
【学生】WebClass等で依頼

【教員・職員】メール等で依頼

○回答率：【学生】19.2%(1666 / 8664)

【教員】32.8%(276 / 842)

【職員】38.7%(543 / 1402)





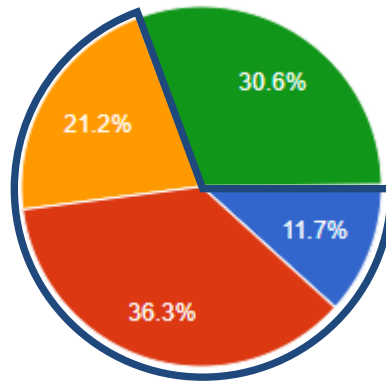
本学の認知率

学生：1666 / 8664

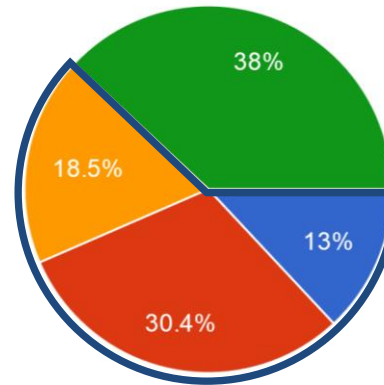
教員：276 / 842

職員：543 / 1402

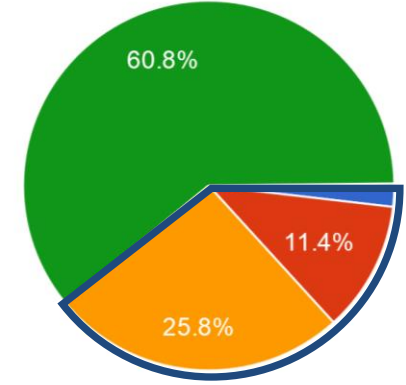
- よく知っている。
- ある程度知っている。
- 用語だけは知っている。
- 知らない。



69%



61%

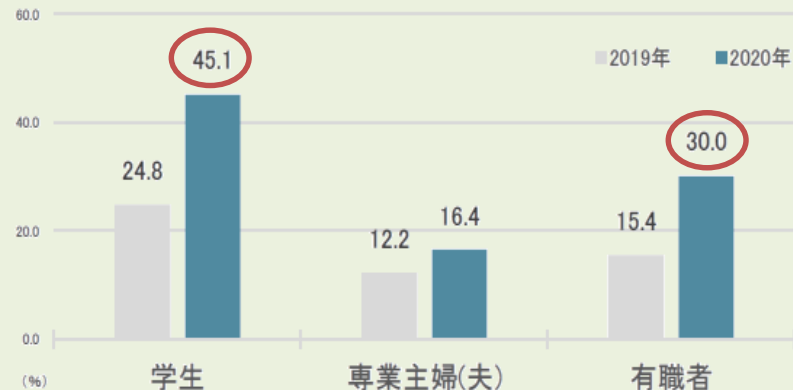


38%

参考＜SDGsに関する生活者調査＞

職業別のSDGs認知率の経年比較

- 調査機関：株式会社電通マクロミルインサイト
- 対象エリア：日本全国
- 対象者条件：10～70代の男女
- サンプル数：性年代各100名ずつ、計1,400名
- 調査手法：インターネット調査
- 調査期間：2020年1月18日～1月19日





YU-SDGsの公表(2020年7月16日@学長定例記者会見)

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE



令和2年(2020年)7月16日

山形大学は地域のSDGsへの取組を積極的に支援します

【本件のポイント】

- SDGs^(※1)の実践において主導的役割を担う専門部署を学内に設置し、学内及び地域のみならずSDGsの活用と支援を強化
- SDGsに幅広く貢献する総合大学としての対応と、山形大学生の若い力と感性をいかし地域課題の解決に取り組む
- 山形県や県内各市町村、メディア、企業等とも積極的に連携し、オール山形で取組体制の構築を目指す



【概要】

山形大学は2020年4月、玉手英利学長の就任にあたり、重視する点の一つとして「社会の持続的発展への貢献」を表明し、5月に林田祐副学長をリーダーとする山形大学SDGsタスクフォースを設置して、山形大学におけるSDGsへの基本方針等を取りまとめました。今後、学内及び地域のSDGs活動を積極的に支援する組織を立ち上げ、「YU empowering with SDGs」事業を推進して参ります。具体的には、①学生へのSDGs教育の充実化 ②SDGsに貢献する研究推進 ③一般市民に向けたSDGs啓発活動 ④山形県や市町村、メディア、企業等地域団体との連携と取組の強化 ⑤SDGs対応の大学経営等を行い、持続可能な社会の構築に貢献して参ります。

【現状 (SDGsの学内認知度)】

山形大学生のSDGs認知度69.2% (全国の大学生 52.1%)

(学内アンケート及び株式会社クロス・マーケティング <https://www.cross-m.co.jp/> が実施した調査)

【これまでの実績と今後の展望】

○社会の持続可能な発展に貢献する多数の教育プログラム・研究プロジェクトの実施実績

○「エリアキャンパスがみ」などの地域課題への解決にむけた多くの事業実績

→■SDGs視点での更なる活動推進

■基礎教育 (学生への共通教育プログラム) と附属学校 (幼、小、中) でのSDGs対応と充実化検討

■学生や一般市民、企業担当者等のためのSDGsに関する独自発行物の検討

■学内外に向けたSDGsポータルサイト「YU SDGs EmpowerStation」の開設

■山形県や地方自治体、地元企業等と連携した「SDGsイベント」の開催

■高校生・大学生向けSDGs学習会の開催

■飯豊町(「2018年度SDGs未来都市^(※2)」に選定)と連携したSDGs事業をスタート

お問い合わせ
 法人本部 国際交流室 室長 今野 浩美
 TEL 023-628-4118
 メール rgkokusai@jm.ky.yamagata-u.ac.jp



山形大 SDGs 積極支援

行政、企業と連携へ

学長会見、方針発表

山形大は16日、学長定例記者会見で、SDGsに関する基本方針を明らかにした。玉手英利学長は、SDGsは「持続可能な開発目標」として、2030年までに達成を目指す。山形大は、SDGsの達成に貢献するため、学内及び地域のSDGs活動を積極的に支援する組織を立ち上げ、「YU empowering with SDGs」事業を推進して参ります。具体的には、①学生へのSDGs教育の充実化 ②SDGsに貢献する研究推進 ③一般市民に向けたSDGs啓発活動 ④山形県や市町村、メディア、企業等地域団体との連携と取組の強化 ⑤SDGs対応の大学経営等を行い、持続可能な社会の構築に貢献して参ります。

5月、林田祐副学長をリーダーとするタスクフォース(学長室)を設置し、基本方針を取りまとめた「empower」の取り組みを進める。SDGsは「持続可能な開発目標」として、2030年までに達成を目指す。山形大は、SDGsの達成に貢献するため、学内及び地域のSDGs活動を積極的に支援する組織を立ち上げ、「YU empowering with SDGs」事業を推進して参ります。具体的には、①学生へのSDGs教育の充実化 ②SDGsに貢献する研究推進 ③一般市民に向けたSDGs啓発活動 ④山形県や市町村、メディア、企業等地域団体との連携と取組の強化 ⑤SDGs対応の大学経営等を行い、持続可能な社会の構築に貢献して参ります。

同大にも、学生がSDGsに関する知識・スキルを身につけて、地域課題の解決に取り組むべきだと訴えている。(小関 浩)



山形県・山形新聞社との「共同宣言」(2020年8月6日@Gホテル)

山形県、山形大学及び山形新聞社による SDGsの推進に向けた共同宣言

山形県、国立大学法人山形大学及び株式会社山形新聞社は、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の考え方に基づいて、人と自然との調和のもとで県民誰もが真の豊かさと幸せを実感できる山形県づくりを目指します。そのため互いに連携して行動していくことを宣言します。

私たちは、本宣言を山形県におけるSDGsの理念の普及と実践をさらに拡大させるための第一歩と位置づけます。下記の「行動・実践の共同指針」に賛同する多くのみなさまの参画を求めてSDGs推進プラットフォーム（仮称）を組織し、県民運動への発展を目指します。

《行動・実践の共同指針》

1. 私たちは、山形県の持続可能な発展に向け、SDGsの考え方に基づいて、それぞれの役割を果たすとともに互いに協力・連携し、活動を加速させます。
2. 私たちは、従来取り組んでいる事業とSDGsの理念との整合性を確認し、SDGsの実現に結びつく取り組みとして磨き上げ、多くの県民の主体的な参画を求めています。
3. 私たちは、SDGsに関する取り組み等の情報を県内外に積極的に発信し、SDGsの考え方の理解・普及とさらなる実践の深化に努めます。

2020年8月6日

山形県知事

国立大学法人 山形大学長

株式会社山形新聞社 代表取締役社長

吉村美栄子

玉手 英利

寒河江 浩二



やまがたSDGs推進ネットワーク(YES-Net)開設(2020.9.27@Facebook)

運営事務局
・山形大学
・山形新聞
合同

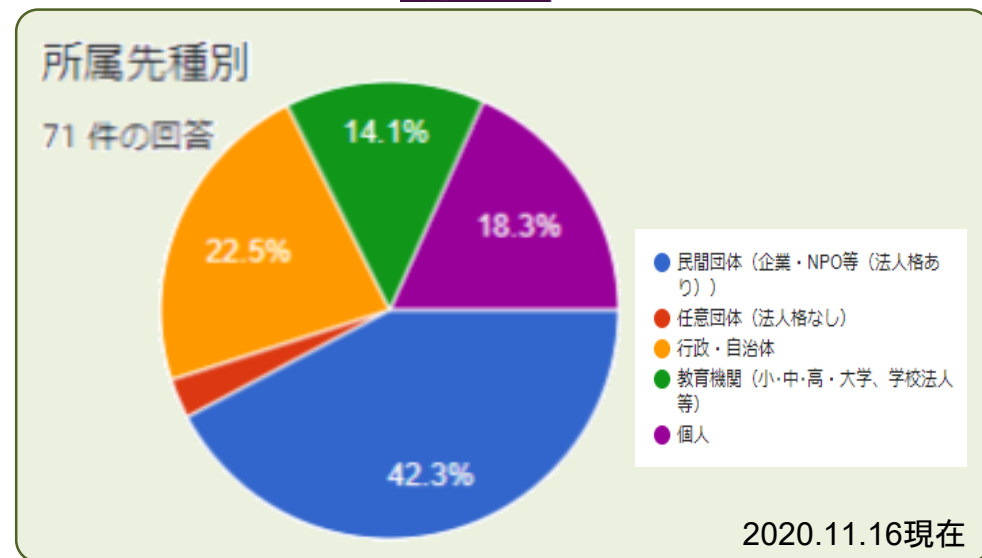


【やまがたSDGs推進ネットワーク会員募集！】(入会金・会費無料)

メンバーに登録いただくと、ネットワークが運営するメンバーズリストに登録されると共に、ネットワークが運営するSlackにも参加できます(任意)。

Slack内では、SDGsの17目標、組織・団体カテゴリーごとに様々な情報を交換することができます。入会希望の方は以下のフォームよりご登録ください。

<https://forms.gle/G1BKnfqRwy5K74Y9>



5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

ポータルサイト「EmpowerStation」の開設(2020年12月2日)

これからの年齢層に訴求する
遊び心あるサイトデザイン



イベント告知
(SNSシェア対応)

SDGs関連プロジェクト等

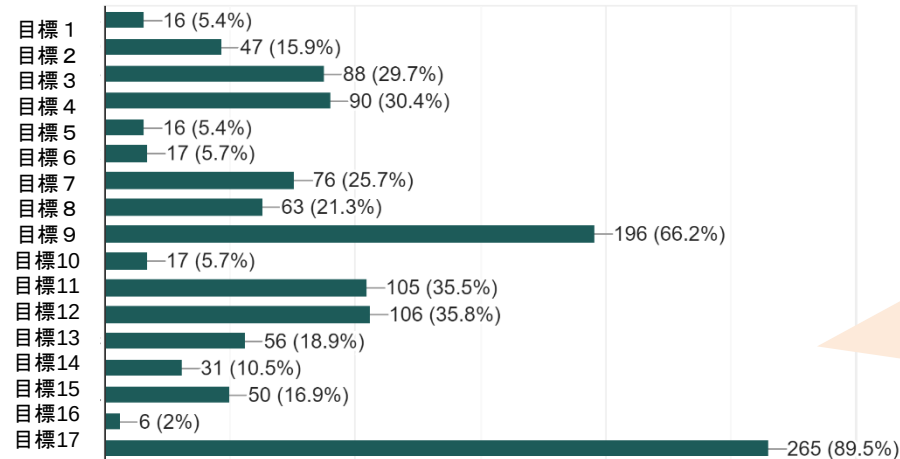


登録済プロジェクトの状況

(開設時296件(2020年12月2日時点)、2022年3月30日現在、367件を登録)

■関連するSDGs

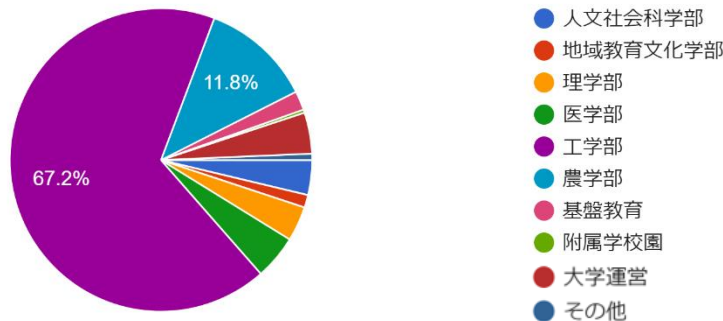
296 件の回答



目標別では目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」が89.5%、目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」が66.2%と多くなっている。

■担当学部等

296 件の回答



学部別では工学部が67.2%、農学部が11.8%と多くなっている。いずれも研究シーズ集からの引用が多いため。

オンラインセミナー開催

YU-SDGsオンラインセミナーを開催

- ☑ 2020年12月11日（金）、初のオンラインセミナーを開催し、役50名が参加。
- ☑ 玉手学長が山形大学の取り組み方針を説明
- ☑ YU-SDGsメンバーからこれまでの取り組みと今後の予定を説明



日時：2020年12月11日（金）16:00-17:00

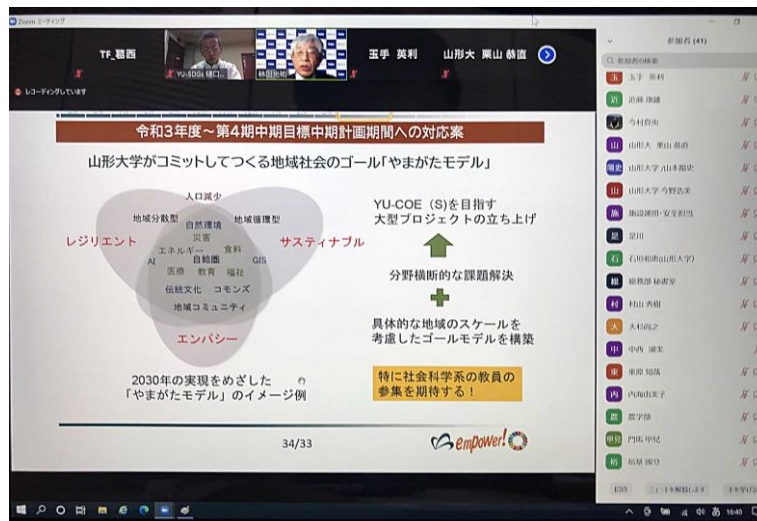
会場：zoomによるオンラインセミナー（事前申し込み必要）
（オンデマンド配信も予定）

対象：本学教員・職員・役員
（学生対象は1月以降別途開催予定）

内容：①玉手学長あいさつ
②YU-SDGsタスクフォースからの説明
（タスクフォースリーダー（林田副学長）ほか）
③参加者との意見交換



申込先



山形大学
Yamagata University



一件担当—
YU-SDGs TF 樋口(EM部) 内線:4867
higu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



飯豊町新春講演会で玉手学長が講演

☑ 2021年1月12日（火）、飯豊町町民総合センター「あ～す」において、令和3年飯豊町新春講演会が開催され、玉手学長が「鳥獣問題から考える地域社会の将来」と題してSDGsに関する講演を行った。

☑ 「飯豊町の豊かなフィールドを教育の場として、学生に様々なことを体験してもらいたい」、「今後、大学として社会人教育にも力を入れていくため、飯豊町の持続的な発展を担う人材の育成についても協力していきたい」





YU-SDGsパートナー 「モンテディオ山形ボランティアスタッフ」の派遣

■募集対象：本学学生・教員・職員

■募集内容

- ・SDGsブース設置・運営
- ・YU-SDGsの紹介
- ・その他スタジアム運営補助
(入場ゲート作業等)

■期間（2021シーズン）

- ・ホームゲーム21試合で参加可能な日時
(途中参加OK)

■場所：NDソフトスタジアム山形（天童市）

■当日のタイムスケジュール

(※14時キックオフの場合)

- ・10:00 控室集合
- ・10:30 ブース設置終了
- ・12:00 ゲート配付
- ・14:00 ブース終了
(その後試合観戦できます。)



※2022年3月末現在、48名登録。2021年シーズンは8試合のべ25名を派遣

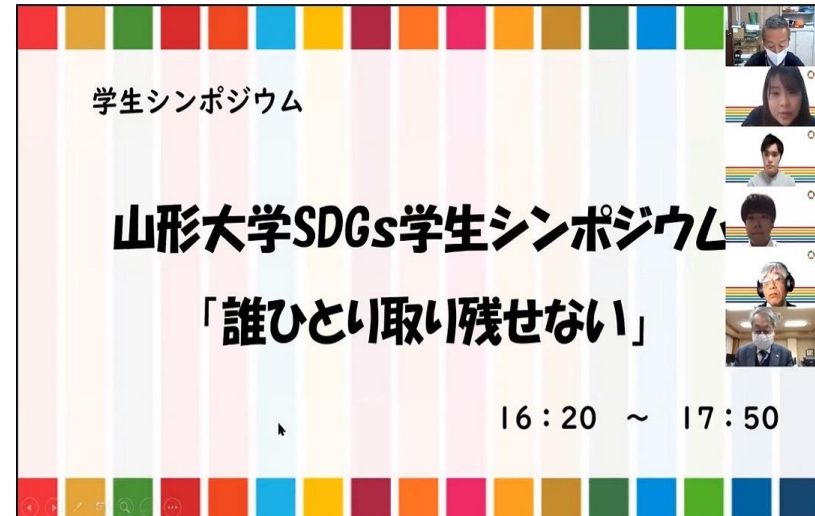


第 1 回SDGs学生シンポジウム 「誰ひとり取り残せない」

☑ 2021年1月28日に山形大学SDGs学生シンポジウム「誰ひとり取り残せない」をオンライン（zoomウェビナー形式）で開催

☑ SDGsは「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っていますが、シンポジウムタイトルをあえて「誰ひとり取り残“せ”ない」とした山形大学の強い決意を表した

☑ 山形県に分散した4つのキャンパスからオンラインで約40名の学生が参加





第2回SDGs学生シンポジウム「山大×SDGs×障がい学生支援」

✓ 2021年6月26日に山形大学SDGs学生シンポジウム「山大×SDGs×障がい学生支援」をオンライン（zoomウェビナー形式）で開催

✓ 障がい学生支援の学生ボランティア「ハトサポ」の活動紹介と聴覚障害者の方からの体験披露と学生へのメッセージ

✓ 山形県に分散した4つのキャンパスからオンラインで約30名の学生が参加





飯豊町立手ノ子小学校で「SDGs出前授業」

☑ 2021年2月5日（金）、飯豊町立手ノ子小学校で栗山恭直教授（YU-SDGsサブリーダー）が「SDGs出前授業」を実施

☑ 手ノ子小学校の5, 6年生14名が受講。
丸川和久校長や同町教育委員会の指導主事が見守る中、プレゼン資料でアルミニウムの基礎知識を学んだ上で、リサイクルに適している性質を、実際に酸性水溶液等に溶かして実験

☑ 児童たちは、講義内容のメモをとったり、元素表の暗記を試みたり、アルミニウムが溶け出す音に歓喜の声を上げるなど、熱心に受講。



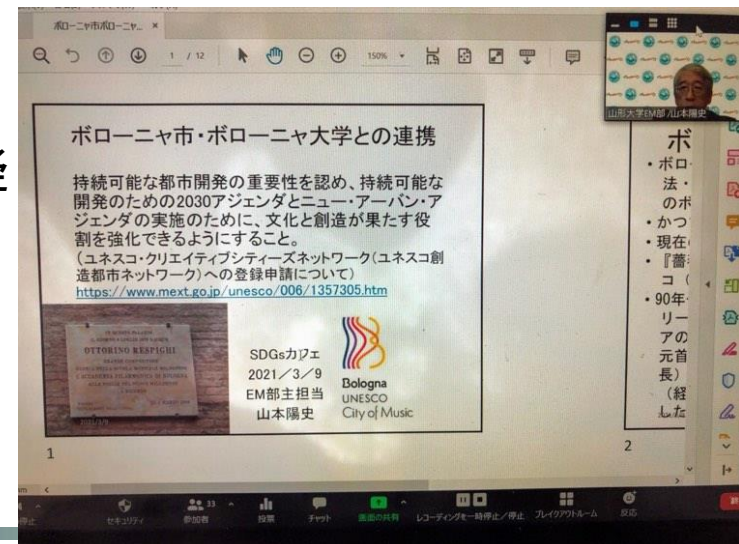


第1回 YU-SDGsカフェを開催（2021年3月9日）

☑ 2021年3月9日（火）、第1回YU-SDGsカフェをオンラインにて開催（公開）。36名の参加者のうち、約半数は本学の学生。一般の方からも参加

☑ 冒頭、司会の栗山恭直教授（YU-SDGsタスクフォース・サブリダー）から、カフェの開催趣旨等について説明があったあと、山本陽史教授から「ボローニャ市・ボローニャ大学との連携」、小倉泰憲教授から「日本でSDGsに取り組むという事」のテーマで話題提供。

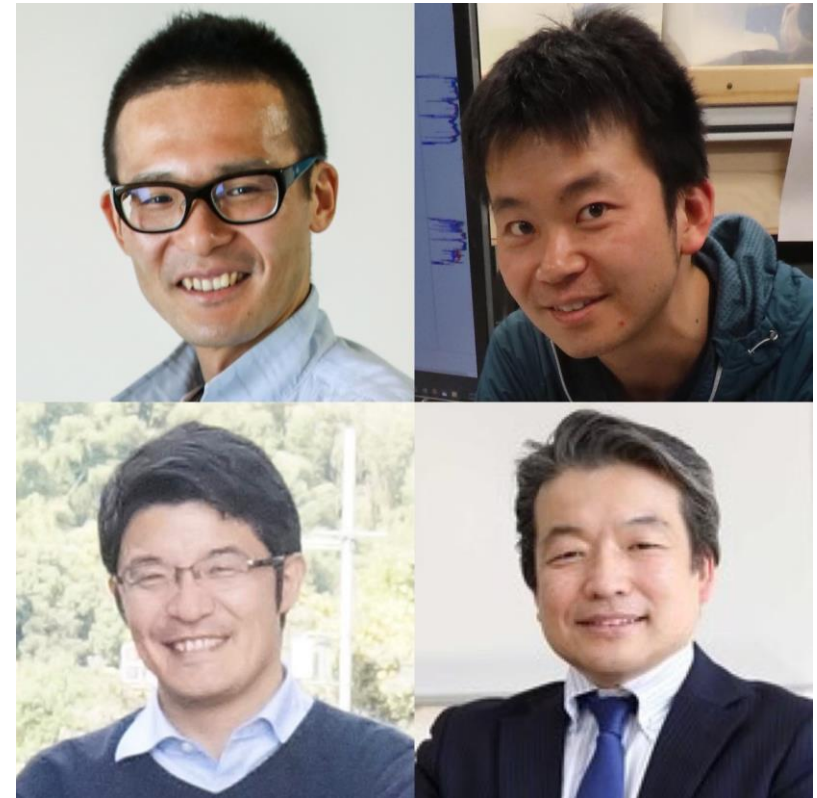
☑ 最後はチャットや挙手により活発な質疑応答が行われ、開催後のアンケートでは「大変勉強になりました。今後の展開が楽しみです」などの回答をいただきました。





第2回 YU-SDGsカフェを開催（2021年5月30日）

- ☑ 今回のテーマは、研究者と考えよう！自分ごとの地球温暖化で、本学学生・教職員のほか、他大学関係者、地域内のYU-SDGsパートナー、卒業生も参加。
- ☑ 稲津大祐 准教授（東京海洋大学）、安川和孝 講師（東京大学）、辻健 教授（九州大学）から、最新の研究内容を分かりやすく発表。
- ☑ 最後はチャットやQ&A機能を使って活発な質疑応答が行われ、アンケートでは46名の方から回答があり、「とても良かった71%、まあまあ良かった26%」の高評価のほか、「現在第一線で研究を進めておられる研究者方のお考えを伺うことができ、非常に有意義な時間を過ごせました」などのご意見をいただきました。



「カーボン・ニュートラル達成に向けた大学等の貢献に係る学長等サミット」に参加

☑ 2021年3月23日（火）、「カーボン・ニュートラル達成に向けた大学等の貢献に係る学長等サミット」がオンラインで開催され、玉手学長も参加。

☑ このサミットは、文部科学省、環境省及び経済産業省が呼びかけ実現したもので、全国の160の大学や研究機関が参加。

☑ 本学は、SDGsタスクフォースメンバーが地域ゼロカーボンWG、人材育成WGに参画。



基盤共通教育科目「YU empowering with SDGs～ローカルSDGsの実践～」の開講

【授業の目的】

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標（SDGs：Sustainable Development Goals）のアウトラインと特徴を理解した上で、本学のSDGsに関連する教育・研究と、山形県内の企業・自治体における先進的なSDGsの実践を学ぶことによって、“自分ごと”としてSDGsを捉え、行動できるようになることを、本授業の目的とする。

【授業の到達目標】

- 1) SDGsのアウトラインと本学を含むローカルSDGsの実践を理解する。
- 2) 1)を理解した上で、“自分ごと”としてSDGsの達成に貢献しうる行動ができるようになる。

YU empowering with SDGs～ローカルSDGsの実践～(学際)
 YU empowering with SDGs～Practice of local SDGs～(Interdisciplinary Study)
 担当教員: 林田 光祐(HAYASHIDA Mitsuhiro)
 担当教員の所属: 農学部食料生命環境学科森林科学コース
 担当教員の実務経験の有無: 有
 担当教員の実務経験の内容(有の場合): 山形県内の企業・自治体等におけるSDGsの実践
 開講学年: 1年, 2年, 3年, 4年 開講学期: 前期 単位数: 2単位 開講形態: 講義
 開講対象: 科目区分:

【外部招講師】

山形県内の企業（JT山形、リコー山形、モンテディオ山形）、自治体（飯豊町）、マスメディア（山形新聞社）、NPO（知音）等から7名を招へい。



約60名の受講生が自分ごととしてのSDGsアクションプランを作成し、講義最終日に発表会を実施。



WIPO GREEN パートナーに認定（2021年4月20日）

☑ WIPO GREENは、国連の世界知的所有権機関(WIPO)が運営する、環境技術の活用を促進するためのグローバルプラットフォーム。パートナーとして各国の特許関連機関や、トヨタ自動車(株)、(株)リコー、本学発祥の帝人(株)など我が国を代表する企業がパートナー認定され、各自が保有する環境技術を発信。

☑ 日本からのWIPO GREENパートナー参加は、30機関・団体で世界一。大学・研究所では本学の認定が国内で4機関目。

☑ 今回の認定を契機として、山形大学の環境技術を世界に発信し、技術移転をempower !

Partner of
WIPO GREEN

wipo.int/green



2021年度 JT「SDGs貢献プロジェクト」採択 (5月13日)

☑ 2021年度JT「SDGs貢献プロジェクト」に本学申請事業「SDGsビジネスプランコンテストによる事業化支援および学生SDGsプロジェクトコンテストによる活動支援」が採択

☑ 本採択により、JT山形支店様とのパートナーシップで本学のSDGsに関するビジネスプランコンテストと学生によるプロジェクトをempower!

☑ 玉手英利学長は、「今回の採択によって、本学の起業家教育と学生の地域貢献活動を貴支店との協働によりさらにempower!できるものと期待しています」と挨拶



学生・教員のSDGs認知度が80%超！全学の開講科目の83%がSDGs関連

☑2021年2月に実施した「SDGsに関する意識調査アンケート」では、2020年7月に行った同調査と比べ、本学学生と教員のSDGs認知度が大幅にアップ（学生：69.2%⇒89.0%、教員：43.4%⇒83.7%）

☑令和3年度にシラバス入力項目にSDGs関連項目の有無を☑する改修を実施。その結果、本学が開講する全4158科目のうち、3446科目がSDGsの17目標いずれかに関連（全体の82.9%）するなど、SDGsを実践する意識は確実に向上。

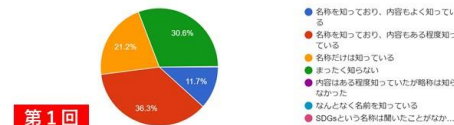
☑このことについて、2021年5月13日（木）の学長定例記者会見で発表。

【学生用】

Q3 あなたはSDGsを知っていますか。

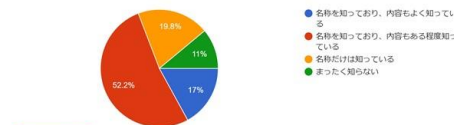
Q4 あなたは「SDGs（持続可能な開発目標）」を知っていますか？

1,666 件の回答



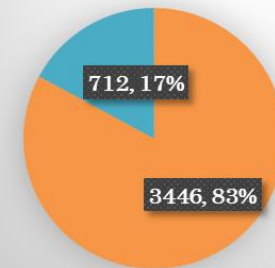
Q3 あなたは「SDGs（持続可能な開発目標）」を知っていますか？

671 件の回答



「名前だけは知っている」まで加えると、69.2%⇒89.0%と認知度は格段にアップしている。

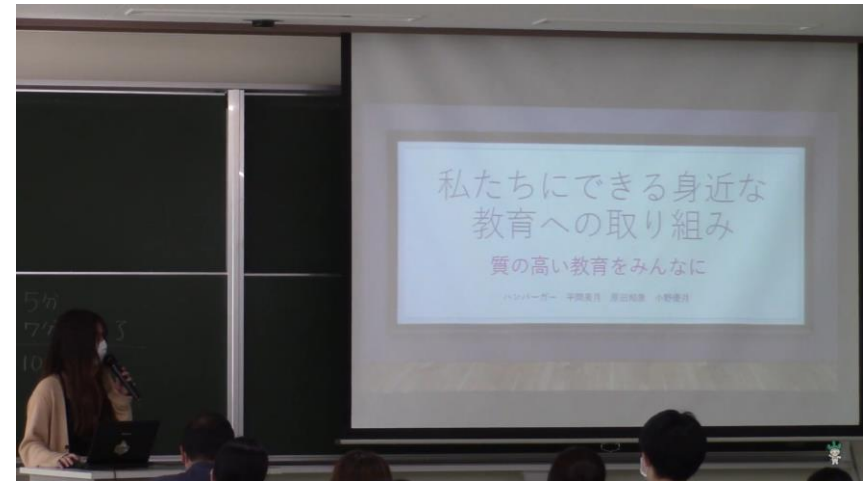
SDGsに関連するか否か？



■ SDGsに関連する
■ SDGsに関連しない

基盤共通教育科目で学生が“自分事”の行動計画を 発表（7/26、8/2）

- ☑ 7/26と8/2に基盤共通教育科目「YU empowering with SDGs～ローカルSDGsの実践～」を開講（14, 15回目）。
- ☑ 17のグループ毎に検討してきた“自分事”としてのSDGS行動計画を発表
- ☑ グループは3, 4名で構成され、7分の持ち時間でスライドを用いて発表。
- ☑ 招へい講師の山崎多代里様（NPO法人知音代表）、神村昌志様（(株)モンテディオ山形営業部長）からは、それぞれ「少ない時間でよくまとめられていました。フェアトレードは通り一遍にはいかないが、チームとしての力を発揮してほしい」、「全部網羅するのではなく、一点突破の説得力あるアクションが大事」との講評



学生が古米配布イベントを実施（2021年7月15日）

☑ 7月15日（木）、基盤共通教育科目

「YU empowering with SDGs～ローカルSDGsの実践～」を受講している学生が、古米配布イベントを実施。

☑ 古米の配布を行ったのは理学部2年の鈴木奏楽さん、地域教育文化学部1年の渡部真悠さん、医学部1年の佐々木ヒカルさんの3名

☑ 3名は授業を通して、YU-SDGsパートナーである山形大学生生活協同組合で販売している農学部付属農場産のお米（キューブ米）がコロナ禍により購入機会が減少したことで売れ残っていたことに着目。

☑ 食品ロス削減の第一歩として今回、山形大学生協にもご協力いただき、余っていた古米124名分（一人あたり2合分）を用意。当日は開始からわずか10分ほどですべての古米の配布が終了した。



令和3年度 医学部技術部職員研修で林田リーダーが講演（8月3日）

☑ 医学部交流会館ホールで開催された「令和3年度第26回山形大学医学部技術部職員研修」のテーマは「SDGs」。

☑ YU-SDGsタスクフォースの林田光祐リーダー（副学長）が「山形大学でSDGsに取り組む意義」について、樋口浩朗メンバー（EM部上席専門員）が「YU-SDGsタスクフォースの具体的な取り組み」について発表した。



1.山形大学で SDGs
に取り組む意義



2.YU-SDGsの具体的
な取り組みについて

【YU-SDGs×山形大学基金】 櫻井建設様から山形大学基金へご寄付（2021年9月6日）

☑ 9月16日（木）、学長室において株式会社櫻井建設様から山形大学基金への寄付目録贈呈式を実施。

☑ ご寄付は、山形大学基金に新設した「やまだい未来へつなぐプロジェクト」の「自然と人間の共生」再興（再考）プロジェクトへいただいたもので、本学のSDGs活動の推進のために使用させていただきます。

☑ 今回のご寄付の一部は、(株)荘内銀行の「荘銀SDGs私募債」を活用し、贈呈式には同社の日野俊孝取締役専務執行役員も同席。





「やまがたSDGsフェスタ2021」に参加（9月23日）

☑9月23日（祝）、山形国際交流プラザにおいて「やまがたSDGsフェスタ2021」が開催され、山形大学からは玉手英利学長とYU-SDGsタスクフォースメンバー29名が参加。

☑山形県内でのSDGsの啓発を目的としてYU-SDGsパートナーである山形新聞・山形放送の8大事業として実施されたもので、県内から624名の来場者。

☑オープニングセレモニーでは、吉村山形県知事、佐藤山形市長、玉手学長等によるテープカット。トークセッションでは、寒河江山形新聞社社長の司会で神奈川大学の兼子学長と玉手学長による鼎談が行われ、「なぜ大学がSDGsに取り組むのか」「学生の反応について」「山形に期待すること」等について話し合われた。



【出展一覧】

- ① 栗山恭直研究室
- ② YUCaN
- ③ Team 道草（学生サークル）
- ④ 模擬裁判実行委員会
- ⑤ カロリンイプナー研究室
- ⑥ 農学部附属高坂農場
- ⑦ 古川英光研究室
- ⑧ YU-SDGs

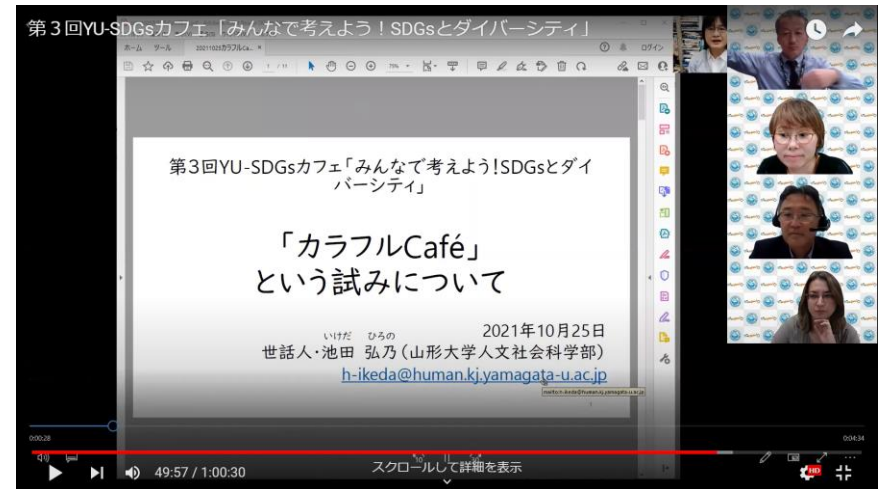


第3回 YU-SDGsカフェを開催（2021年10月25日）

✓ 今回のテーマは、みんなで考えよう！
SDGsとダイバーシティ。本学学生・教職員のほか、高校生、地域内のYU-SDGsパートナー、卒業生など、50名超が参加。

✓ 学生コメンテーターとして登壇した田近莉沙さんと岩城高紀さん（共に人文社会科学部、模擬裁判実行委員会所属）は、学生目線のするどい意見を連発。

✓ 開催後のアンケート（40名）では、「とても良かった67%、まあまあ良かった27%」の高評価のほか、「発信だけでなく話し合う形式が生産性のある会話でたのしかったです」「身近な問題からSDGsについて語り合っている雰囲気がとても馴染みやすかった」などの意見。





山形県「カーボンニュートラルオンライン講座」委託事業に協力（2021/11～2022/2）

☑ 山形県の公募事業「令和3年度カーボンニュートラルオンライン講座」委託事業に、YU-SDGsパートナーの(株)山形テレビ（YTS）が採択され、本学が協力。

☑ 本事業の目的は、県が宣言した「ゼロカーボンやまがた2050」の達成に向け、県民のカーボンニュートラルへの理解や行動の促進を図る」こと。

☑ 全7講座（1テーマ15分程度）のオンライン講座の制作に、本学はYU-SDGsタスクフォースとYUCaN（山形大学カーボンニュートラル研究センター）が講師として協力



第4回 YU-SDGsカフェを開催（2021年12月16日）

☑ 米沢キャンパス「未来ホール」をメイン会場にオンラインを併用して開催（公開）。

☑ 今回のテーマは、女性・若手研究者 研究交流会～SDGsの観点からの研究交流～

☑ 本学学生・教職員のほか、高校生、地域内のYU-SDGsパートナー、卒業生等57名が参加（うち「未来ホール」で米沢興譲館高校の生徒16名が受講）

☑ 開催後のアンケートでは22名から回答があり、「とても良かった50%、まあまあ良かった40%」の高評価



YU-SDGs Award 2021表彰式を開催（12月21日）

☑ SDGsの達成に貢献する優れた教育・研究・学生活動・大学運営等を行っている本学の個人・団体を表彰するとともに、今後の活躍が期待できる活動を支援することを目的とした「山形大学SDGs表彰（YU-SDGs Award）」を創設。

☑ 今年度は、10件の応募が寄せられ、審査基準に基づく厳正な審査の結果、大賞1件、優秀賞3件、奨励賞2件が決定。12月21日、小白川キャンパスにおいて「YU-SDGs Award 2021」表彰式を開催し、ウェビナーで配信



大 賞：がんゲノム管理室コアメンバー
「がんゲノム検査の実現と展開～山形オリジナルのプロジェクトを含めて～」
優秀賞：Team道草「Team道草のプロジェクト」
優秀賞：模擬裁判実行委員会「模擬裁判って？模擬裁判とSDGs」
優秀賞：バイオマス資源学研究室「米加工副産物の有価資源化に関する研究」
奨励賞：附属特別支援学校「地域の人とつながり、県産材を通して山形の森林を元気にしよう」
奨励賞：工学部国際交流センター「米沢キャンパスのグリーン化推進英語活動」

第5回 YU-SDGsカフェを開催（2022年1月27日）

☑ 今回のテーマは、「この山形でどうしてこの人たちは面白そうに仕事してるのか、聞いてみたくないですか!？」

☑ 本学学生・教職員のほか、高校生、YU-SDGsパートナー、卒業生等70名が参加。

☑ 開催後のアンケートでは37名から回答があり、「とても良かった62%、まあまあ良かった27%」の高評価。

第5回YU-SDGsカフェ（ウェビナー）

この山形でどうしてこの人たちは面白そうに仕事してるのか、聞いてみたくないですか!?

一緒に語ってくれる山大学生大募集!

(一般の方の参加も可)

研究者と医者とカウンセラーであなたのお悩み一発解決します!



山形大学 教授
城戸淳二
Junji Kido



さとこ女性クリニック院長
井上聡子
Satoko Inoue



山形大学 学生相談室
中澤未美子
Mimiko Nakazawa

日時：2022年1月27日（木）
19:00-20:00

対象：山大学生、一般の方

参加費：無料

申込先：
<https://forms.gle/wMNC3qWsQ5zrzDq5>





国立大学法人評価委員会からYU-SDGsが高評価

☑ 令和3年12月1日付けで国立大学法人評価委員会が発表した「国立大学法人・大学共同利用機関法人の令和2年度に係る業務の実績に関する評価」において、YU-SDGsが高く評価された。

1. 全体評価

学長のリーダーシップの下、SDGsの実践において主導的役割を担う組織を学内に設置し、学内及び地域へSDGsの活用と支援を強化することを目的として、「YU empowering with SDGs」事業を推進することを表明するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2. 項目別評価

○ SDGsの貢献に資する経営の推進

学内及び地域へSDGsの活用と支援を強化することを目的として、「YU empowering with SDGs」事業を推進することを表明し、山形県内の企業、自治体、大学等の各種団体等への参加を呼びかけ、「やまがたSDGs推進ネットワーク」（山形大学と山形新聞社が事務局を担当）を組織し取組を開始している。また、ウェブサイト「YU-SDGs Empower Station」を開設し、SDGsの17目標の全てを、目標ごとに対応する研究や教育活動等により紹介し、興味のある内容を知りやすくするため目標別に検索・表示が可能で、小中学生等も親しめるよう遊び心のあるデザインとなっている。

2022年2月9日 山形新聞

山形大業務高い評価

20年度SDGs推進など「注目」

文科科学省の国立大学法人評価委員会による2020年度の業務実績評価で、山形大が高い評価を受けた。SDGs（持続可能な開発目標）事業の推進や、戦略的な情報発信などが注目される取り組みとされた。

評価委は各大学が定めている第3期中期計画（16、21年度）の進捗状況を対象として、業務運営の効率化や財務内容の改善など4項目を6段階で判定した。その結果、山形大と金沢大のみが「特筆」に次ぐ評価である「一定の注目事項がある」を2項目で受けた。山形大の残り2項目は「下の「順調」だった。

山形大は学内外のSDGs事業の支援強化を表明。同大と県、山形新聞社の共同宣言に基づいて「やまがたSDGs推進ネットワーク」を組織した。ウェブサイトで17の目標に対応する研究や教育活動を紹介している。

情報発信では、広報誌や会員制交流サイト（SNS）など複数のメディアを活用して大学に関わる2万5800人を紹介した。SDGs普及啓発のウェブサイトを閲覧数が740万件のページビューに達した。

新型コロナウイルス関係では、付属病院の外来患者を対象に血清疫学調査を行い、抗体保有状況を公表するなどした。

同大の玉手英利学長は「これまでで一番良い評価を受けたと考えている。新型コロナやSDGsを中心に、大学の取り組みを広く社会に知ってもらいたい」と話している。

（玉手秀明）

SDGsの普及啓発のために山形大が開設したウェブサイト

文科省委

YU-SDGs Empower Station

YU-SDGs EmpowerTrain 路線案内

- 人間線 People Line
- 経済線 Economy Line
- 環境線 Environment Line
- 文化線 Culture Line
- 国際線 International Line
- 未来線 Future Line
- パートナーシップ線 Partnership Line



学生・教員のSDGs認知度が90%超！（第3回意識調査アンケートを実施）（2022年2月）

☑ 期間：2022年2月8日～2月25日

☑ 方法：【学生用】web方式のアンケートを教員経由及び1000名超の学生が登録するグループLINEで依頼

【教員・職員用】web方式のアンケートをメールで依頼

☑ 回答率：【学生用】2.1%（184/8635）（前回：7.7%）
 【教員用】16.9%（133/788）（前回：27.0%）
 【職員用】11.9%（173/1455）（前回：22.0%）

☑ 課題：回答率が前回よりさらに大幅減
 ⇒学生用；7.7%⇒2.1%、教員用；27.0%⇒16.9%等
 ⇒学生アンケートでWebClassを活用できなかったこと、マンネリ感が原因か。

(株)チェンジ・ザ・ワールドの環境アクションプラットフォーム開発に貢献（2022年2月）

- YU-SDGsパートナーの(株)チェンジ・ザ・ワールド（酒田市）が開発した環境アクションプラットフォーム「change」に、タスクフォースメンバーのKarolin Jiptner 助教が共同研究で貢献。
- 共同研究題目「カーボンフットプリント計算」
- 共同研究目的（抜粋）「誰でも使用できるカーボンフットプリント計算ソフトをweb上に作成し、広くSDGsやカーボンニュートラルの啓発活動に資する」



(株)チェンジ・ザ・ワールドが開発した「change」の画面

第6回 YU-SDGsカフェを開催（2022年3月28日）

☑ 今回のテーマは、「実はSDGsの主役？
植物の役割について考えよう！」。

☑ 本学学生・教職員のほか、卒業生、YU-SDGsパートナー等37名が参加。

☑ 開催後のアンケートでは23名から回答があり、「とても良かった82%、まあまあ良かった17%」の高評価

第6回YU-SDGsカフェ（ウェビナー）

実はSDGsの主役？

植物の役割について考えよう！

日時：2022年3月28日（月）17:00-18:15

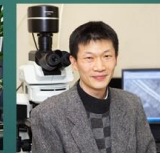
対象：山形大学学生・教職員・卒業生、高校生、一般の方

参加費：無料

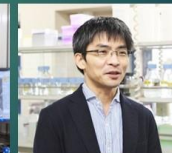
申込先：<https://forms.gle/TPycN92bbY71phFp9>



山形大学 教授
横山 潤
Jun Yokoyama



山形大学 教授
宮沢 豊
Yutaka Miyazawa



山形大学 教授
富松 裕
Hiroshi Tomimatsu

第6回YU-SDGsカフェ

全面表示を終了するには [Esc] を押します



1:17:19 / 1:30:16

パートナーシップの構築



“オール山形”のパートナーシップでSDGsを推進するため、企業、自体等との連携を構築

企業（16社）



三井住友海上



CHANGE THE WORLD



FUJISHO

FLOT



社会福祉法人
みゆき福祉会



自治体（5 団体）



山形県飯豊町



Tsuruoka city
鶴岡市



山形県
Yamagata Prefectural Government



山形市公式ホームページ
やまがた



米沢市

YONEZAWA CITY Official Web Site

教育機関（2 機関）



飯豊町立手ノ子小学校

その他（8 機関）



Partner of
WIPO GREEN
wipo.int/green

美しい山形・
最上川フォーラム



地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム
私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



山形市市民活動支援センター



山形大学生協
Yamagata UNIV. Co-op.

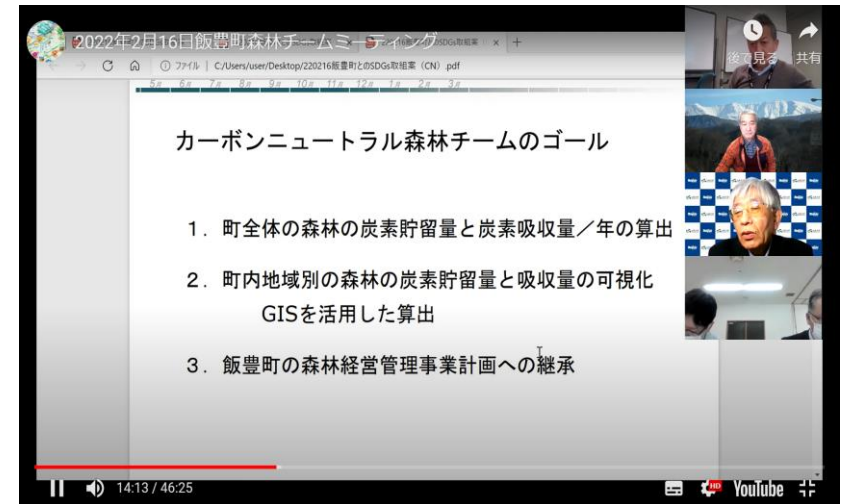


飯豊町とのパートナーシップによる「やまがたモデル」の構築

☑ 県内初の「SDGs未来都市」に選定された飯豊町とは、既報告のとおり、新春講演会での玉手学長の講演、基盤共通教育科目で企画課長の講演、手ノ子小学校での出前授業を実施。

☑ さらに、「山形モデル」構築のための調査・研究（森林調査、農業関連）を、企画課等関係部署並びに2名の地域おこし協力隊と実施中。本調査研究には、野堀名誉教授をはじめ、人文社会科学部、農学部の教員から協力いただいた。

☑ 2022年度は、上記活動の継続とともに、基盤共通教育科目に「YU-SDGs Field Learning in 飯豊」を新開講する（前期）。



メディア露出

YTS「提言の広場」

<テーマ> ローカルSDGsを推進しよう

<放送> 2020/11/7(土)7:30-8:00

<出演>

■ 山形大学理学部 教授 栗山恭直 氏

■ サステナミューズ 代表 佐藤朋子 氏

■ 山形経済同友会 会員

リコージャパン(株)山形支社長土屋賢吾氏

【参考】効果換算額 168万円



山形新聞広告「持続可能な社会発展へ」

<掲載> 2020/11/20(金)

<対談>

山形大学副学長 林田光祐 氏

JT山形支店長 墨谷健二 氏

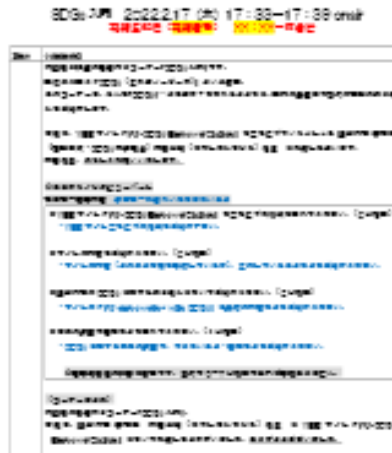
【参考】効果換算額 140万円

メディア露出

YBC「やまがた つなぐ未来」

SDGs「陸の豊かさも守ろう」
樹氷を形成 アオモリトドマツ再生へ

山形大学教授 林田光祐 氏

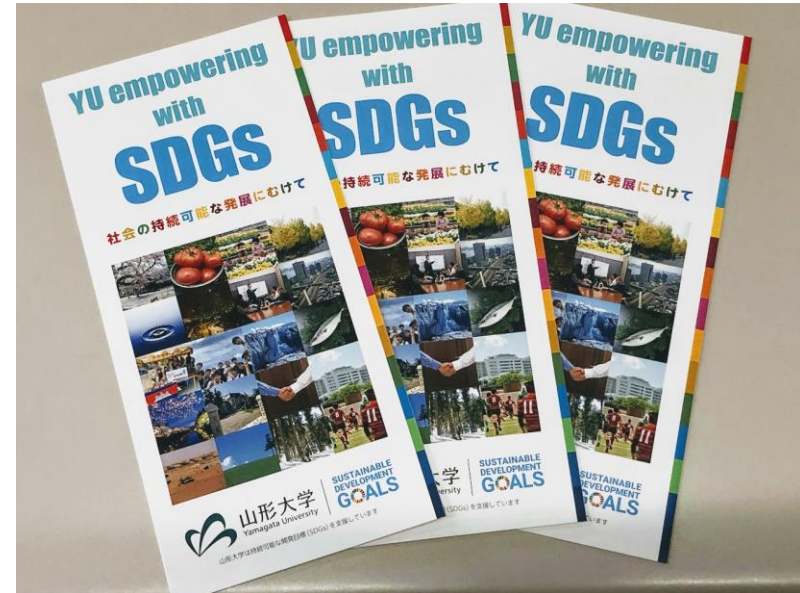


FM山形「SDGs入門」

2022年2月17日 17:30-
山形大学副学長 林田光祐 氏

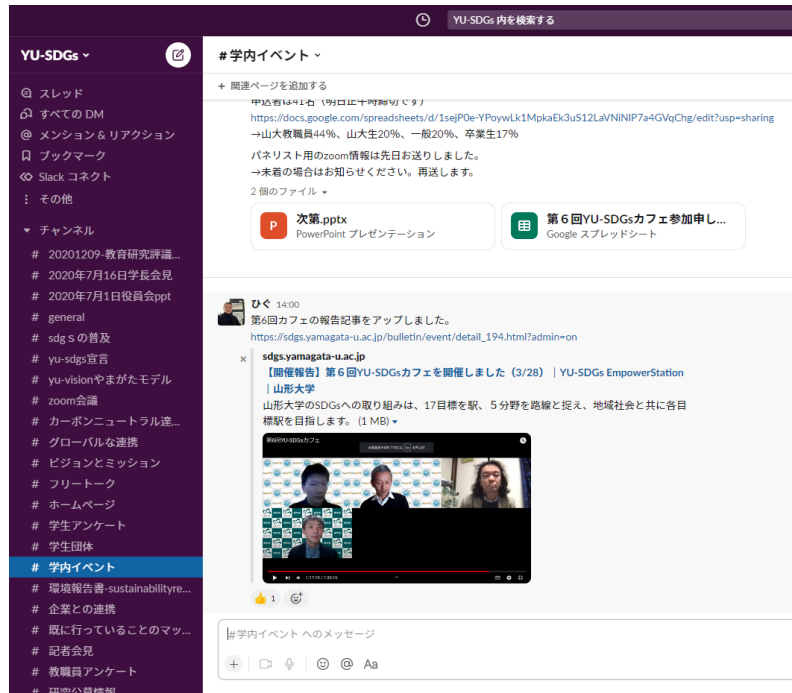
学内外での啓発のために

YU empowering with SDGs
を紹介するリーフレットを作成



YU-SDGs EmpowerStation
を紹介する紙ファイルを作成

タスクフォースの情報共有・意思決定は、 Slackとzoomで“圧倒的スピード感”を実現！



会議はすべてzoomで全9回開催

Slackによる情報交換→伺い→意思決定

第4期中期目標中期計画期間への対応案

YU empowering with SDGs

3つのキーワード で

レジリエント(Resilient)、サスティナブル(Sustainable)、エンパシー(Empathic)

柔軟な、弾力ある、回復力のある

持続可能な

共感、感情移入、人を思いやる

3つの使命 を エンパワー(Empower)する。

- 1 変化に適応できる、これからの豊かさや繁栄の形を探究する**レジリエント**な地域創生
- 2 環境や社会をより良い未来につないでいく**サスティナブル**な次世代形成
- 3 多様な存在や文化を尊重し共感性を育む**エンパシク**な多文化共生

山形大学の
3つの使命と
SDGsの関係



People 人間

世界の貧困をなくす



貧困、飢餓、保健、教育、ジェンダー、水・衛生

Prosperity 繁栄

「つづく経済」をつくる



エネルギー、雇用、産業、格差是正、人間開発

Planet 地球

環境をやり育てる



気候・気象、気候変動、海と陸の生物多様性

Peace 平和

1～15を実現する仕組みをつくる



平和、法の支配、ガバナンス、透明性、説明責任、能力のある政府 など

Partnership 協働

1～15を実現する資金と協力関係を生み出す



SDGs 達成のための資金、技術、能力構築、貿易、経済

第 1 期の総括

- ☑ タスクフォース発足2か月で“empower!”というキーコンセプトを導き出し、本学全体でSDGs活動を推進することができた。
- ☑ Slackを活用して圧倒的スピード感で情報共有と意思決定が実現した。
- ☑ 基盤共通教育科目の開設やシラバス入力システムの改築、YU-SDGsカフェ・学生シンポジウムの開催等により、教員・学生のSDGs認知度は90%を超え、所期の目標は達成された。
- ☑ 構築したポータルサイト「YU-SDGs EmpowerStation」が情報発信とパートナー間をつなぐ柱となった。
- ☑ 2020年8月の山形県、山形新聞社との「共同宣言」をはじめ、26の企業・団体等とのパートナーシップを構築することができた。
- ☑ 第2期に向けては、本学の全構成員（特に学生）が自分事として行動できるようにより一層“empower!”する必要がある。

YU-SDGsタスクフォース構成員 (第1期)

＜学内教職員＞

- ・ 林田光祐 副学長（リーダー）
- ・ 栗山恭直 教授（サブリーダー）
- ・ 下平裕之 教授
- ・ 古川英光 教授
- ・ イプトナー カロリン 助教
- ・ 原田知親 助教
- ・ 菅原 靖 上席専門員
- ・ 樋口浩朗 ファンドレイザー
- ・ 國分裕基 係長
- ・ 半澤結衣 一般職員

＜学外協力者＞

- ・ 藤巻正之 大学生協事業連合組合常務理事

＜学生スタッフ＞

- ・ 山下祐一 農学部3年
- ・ 秋保恭平 理学部3年（チーム道草）
- ・ 菅野光平 人文社会科学部3年（模擬裁判実行委員会）

＜事務＞

- ・ EM部国際交流課

2022年3月31日現在